

## 全社的な安全対策の仕組みづくり

加齢に伴い、体力、平衡感覚や敏捷性、瞬発力等の低下が目立つ高齢者が見受けられ、安全面での不安が増すとの指摘があります。また、高齢者本人のなかにも、加齢による心身機能の低下を感じている者も少なくありません。

現場作業は安全を第一に考えることが絶対条件となります。従業員一人ひとりが日々注意しながら作業を進めることはもちろん、会社全体としても、高齢者の特性に応じたきめ細かな安全対策を積み重ねることが求められます。

高齢者が特に注意しなければならない作業環境に関するポイントは以下のとおりです。

### 作業環境の整備

- 階段や傾斜に手すりや滑り止めを設置したり、段差をなくす。
- 照明を明るく、掲示物の文字を大きくする。
- 警告音を大きくしたり、聴覚だけでなく視覚でも情報伝達できるようにする。
- 作業速度を調整したり、瞬時の判断・反応が必要な作業をなくす。
- 重量物の取り扱い時は補助具を使用したり、複数人で作業する。
- 不安定な姿勢での作業をやめる。
- 騒音、振動、粉じん対策を行う。



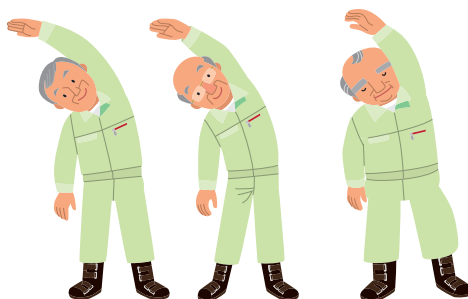
なお、高齢者の労災防止の基本は、現場で働くすべての従業員が安全に働くことができるような作業環境や職場環境を整備することです。

そのうえで、加齢に伴う体力や瞬発力等の低下など留意すべき点が少なくない高齢者については、一般の従業員以上に安全面の対策等について配慮することが求められます。

こうした安全第一といった姿勢を職場に浸透させ、安心して働くことができるような職場としていくためには、全社的な安全に対する取り組みがポイントとなります。そのためには次ページのような取り組みを行うことが考えられます。

## 日々の取り組み

- 朝礼や朝のミーティング時に、今日の仕事内容や危険が予測される作業とその対応策、また、雨天や積雪、強風、高温、低温等当日の天候、気候から見た注意事項を伝える。
- 毎朝、ラジオ体操やストレッチを実施し、体をほぐしたうえで作業をはじめめる。
- 夕礼で職長を中心にその日の作業を総括し、問題のある作業、危険作業の報告とその原因を話し合い、その日のうちに解決しておく。
- 事業主や管理者が、適宜、現場パトロールを行い、安全上問題がないか確認する。その際、気づいた点があればその場で対策を講じるように指示する。



## 定期的な取り組み

- 作業の進捗度合いや現場の状況を確認し、危険箇所のチェックやその対応を指示したり、注意事項を伝達するために定期的にミーティングを開催する。
- 年に1~2回、全社的な安全大会・会議を実施する。
- 無事故・無違反表彰制度や無事故手当といった制度を導入する。
- 重機メーカーや中災防等から講師を招き、適宜、安全講習を実施する。

## 高齢者の知恵を活かす

- 安全マニュアルの作成にあたり高齢者の知恵・ノウハウを取り入れる。
  - KYT(危険予知訓練)の際に高齢者にリーダーになってもらう。
- ※KYT(危険予知訓練)とは、事業場や作業に潜む危険と、それにより発生する災害について話し合い、特定の危険に対する意識を高めて作業をすることで災害を防止しようとするものです。

## 業界経験の浅い高齢者への対処

- 必要以上に難しい仕事を行わせない。
- 体力に応じた仕事をしてもらうように徹底する。